知ってる？
你知道嗎，

オレずっと兄ちゃんが欲しかったんだ
我一直想要個哥哥，

あらすじ

台湾のボロアパートの一室。ランニング姿でJポップを口ずさみながら、父の遺品を片付ける弟。
スーツ姿の兄が、ブリーフケースとレジ袋を持って現れる。そこにスイカを担いで出現する珍客サルサ。
日本語と中国語の入り混じる小さな部屋の中で、三人三様の生き方が交錯する。

Synopsis

A single room in an old, run-down apartment building in Taiwan.
Little brother wears jogging gear and hums J-pop as he sorts through his late father's belongings. Big brother enters, wearing a suit.
In his hands, a briefcase and a grocery bag. Then, an unexpected visitor. Salsa arrives carrying a watermelon.
Inside this tiny room, Japanese and Chinese languages mix, as the three people and their three ways of life intersect.

CAST

陳懷駿 CHEN, HUAI-CHUN チェン・ホワイチュン

兄　40過ぎ。日本のサラリーマン。
兄　四十多歲，日本上班族，

日本に妻と娘あり。
在日本有妻子和女兒。

廖原慶 LIAO, YUAN-CHING リャオ・ユエンチン

弟　20過ぎ。短髪。
弟　二十出頭，短髮，

父親が亡くなったばかり。
最近父親剛剛去世。

彭浩秦 PENG, HAO-CHIN ポン・ハオチン

サルサ　30過ぎ。生理学的には男性。
Salsa　年約三十多，生理男性，

性転換手術を受けている最中。
正在接受變性手術。

亜細亜の骨と台湾と私

亜細亜の骨 主宰　E-RUN（山﨑理恵子）

19歳の時初めて一人で台湾に行った。
もう30年も昔のこと。
懇丁（ケンティン）という台湾の最南端の小さな町では青年活動中心に泊り、徴兵中の若くてカッコイイ兵隊さん達と知り合った。夕方、彼らは夕日を背に台湾の国歌を歌ってくれた。そして夜になるとオープンジープで近くの自然公園にドライブに連れて行ってくれたが途中で大雨になり急いで宿舎に引き返した。
裸足で歩いている山羊飼いのおじさんは「お、日本人か、ご飯食べにおいでよ！」と誘ってくれ、行ってみると留守。お隣さんが「ご飯しかないけど食べて行きなよ」と家に入れてくれると本当に白いご飯一膳のみ出てきた（笑）。
毎回、台湾に行くと日本ではありえないような面白いことがたくさん起こる。
それは台湾の温かい風土とそこで育った人間味に溢れた人たちが引き起こしてくれるミラクルなのだと思う。
そんなミラクルのおすそ分けをしたいのが亜細亜の骨です。『同棲時間』では、旅だけでは見えてこない、もう少し彼らの内面に迫った台湾をお見せできればと台湾クリエイティブチームと二人三脚で暑い夏を過ごします。乞うご期待！

Asian Rib, Taiwan, and Me

Every time I go to Taiwan, so many amazing things happen that could never happen in Japan. I think this is because Taiwan's warm local culture and the people who grow up there are filled with human kindness that helps make these miracles happen.
Asian Rib is my way of trying to share the miracles.
"The Brotherhood" offers a little view into an inner aspect of Taiwan that just can't be seen on a short holiday. I'll be spending a hot summer working closely with my creative team in Taiwan. Come and see!

Asian Rib
Leader
Rieko "E-run" Yamazaki

愛し合うことは、これまでもずっと、二人だけの問題ではなかった。

相愛，從來就不是兩個人的事。

同棲時間　編劇的話

作：林孟寰

2019年、台湾はアジアで初めて同性婚が合法の国家となる。長期に及ぶ中国の政治圧力の下で、この台湾という「アジアの孤児」は、再び民主社会の光明を示し、その独自性を誇らしく証明した。とはいえ、台湾の人々が伝統的な倫理観の転換に向き合うためには、更に多くの時間が必要である。同性婚合法化の夜明け前、私は男性同性愛劇作家としてこの『同棲時間』を書いた。そして、さらに困難な試練を劇中の二人の男の身の上に置くことにした。伝統的な家庭という重い十字架を背負いながら、彼らは互いに愛し合い、しかしまた互いに傷付けあいながら、この傷だらけの愛情について、繰り返し問いを投げかける：

愛とは、一体なんなのだろうか？
幸福になることは、なぜこんなにも難しいのか？

私には答えがない。
もしかすると、この戯曲、あるいはこの時代が、これらの問いに徐々に答えをくれるだろう。

2019年，台灣即將成為亞洲第一個同性婚姻合法的國家。長期在中國政治打壓下，台灣這個「亞細亞孤兒」再次展現了民主社會的光芒，驕傲地證明了自己的獨特。即使如此，台灣大眾仍需要更多時間，來面對傳統倫理的轉變。在此前夕，我以男同性戀劇作家身份寫下《同棲時間》這個劇本。我將更艱難的考驗，放在故事中這兩個大男人身上。背負著傳統家庭的沈重十字架，他們彼此相愛，卻又相互傷害，反覆對這段傷痕累累的感情提出質問：
愛，到底是什麼？
幸福，為什麼這麼困難？
我沒有解答。或許這齣戲，這個時代，會慢慢回答這些問題吧！

In 2019, Taiwan will be the first country in Asia to legalize same-sex marriage. After many years of political pressure from China, Taiwan the so-called "orphan of Asia" has once again shined the light of democracy and proven its proud uniqueness. Even so, it will still take a lot of work to face the transformation of traditional ethics. In the days before the same-sex marriage law is enacted, I have written "The Brotherhood" as a gay playwright. And I have decided to put even more difficult challenges on the two men in the play. As they bear the heavy cross of a traditional household, they love one another, and hurt one another, and repeatedly ask questions about this wounded love.
What is love, anyway?
Why is it so hard to be happy?
I don't know the answers. Perhaps this drama or this era will gradually answer these questions.

林孟寰（リン・モンホワン）　劇作家・シナリオライター・演出家。台湾大学演劇学科戯曲創作修士。国立台東大学児童文学研究所博士課程在籍。台湾学生文学賞、香港青年文学賞、台北文学賞、台北児童芸術祭児童劇戯曲賞などを受賞。テレビシナリオ作品『通霊少女』は2017年台湾テレビゴールデンベルアワード最優秀シナリオ賞を受賞。今、台湾で最も注目されている劇作家の一人。
Lin Meng-Huan　Playwright, scenario writer, theatre director. One of the most-watched up-and-coming playwrights in Taiwan today.

台湾演劇の現在
台灣戲劇的現在

『同棲時間』の劇作家・林孟寰ら台湾のクリエイティブチームをはじめ、いま台湾で最も勢いをもって活動するアーティストたちは、しばしば「ひまわり世代」と呼ばれる。2014年3月、学生たちが立法院を占拠して政権に抗議した「ひまわり学生運動」のインパクトは強烈だった。社会問題に積極的に立ち向かう姿勢をもった今日の多くの台湾のアーティストたちが、運動のシンボルとなったひまわりの花に形容されている。
こうした時代の機運のなかで、もちろん演劇も例外ではなく、現代を生きる彼ら自身が抱える問題に対し演劇ならではの手法で向き合った作品が多く見られる。ジェンダーの問題やLGBTQを扱った作品も、各地で活発に上演されている。今日の台湾のアーティストたちは、身近な問題を「個」ではなく「社会」の問題として捉える視点を持ち、他人と関わり合いながら前向きに社会を動かそうと活動を続けている。